

**限界集落からニューヨークへ届ける米作り****活動の経緯**

輸出米事業を展開していた Wakka グループ代表出口が、海外市場に特化したお米を作りたいと考え、2017年に日本で初めての“輸出米専門の農業法人” Wakka Agri を設立。長野県伊那市の中山間地域を拠点に生産活動を開始するが、農業生産は農村の営みとは不可分であることを痛感、耕作放棄地の再生、在来品種の作付と加工品製造、優れた景観を活かした棚田祭の開催、地元住民の正規雇用などを通じ、地域課題解決のための活動を積極的に行っている。

**活動の概要**

耕作放棄地の再生、在来稲品種の作付け・加工製造、米の輸出、雇用の創出による地域住民の正規雇用。



収穫祭を実施。地元住民との交流



生産した米をニューヨークで販売

**活動の成果、主な実績等**

## ①耕作放棄地の再生および米輸出

長野県で営農を考えていた代表が、母校である信州大学のネットワークを通じて伊那市の限界集落の紹介を受け、2017年に移住・営農を開始。当初2人で開始、現在は7人で作付け。2020年には耕作放棄地9haを再生。再生農地で生産された米は全量輸出。

## ②在来品種の復活・加工品の製造

近年は作付けが急速に減少していた上伊那在来の「白毛餅」を2017年から生産。無農薬栽培、稲架掛け乾燥、切餅の製造により高付加価値化、2017年に20バック、2019年には1,000バックを香港・台湾・シンガポール・米国に輸出。

## ③地元教育機関との連携

上伊那農業高校、信州大学農学部と連携し、田植え体験等の出張講義の受け入れ、草刈作業の効率化に関わる共同研究を実施。